外国語科　年間指導計画

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	1年	全HR

使用教科書	副教材等
All Aboard English Communication Ⅰ （東京書籍）	Word Meister

農業高校における英語科としての目標

　農業高校での体験を含む日常的な話題、グルーバルな農業問題を含む社会的な話題に関する場面を想定した言語活動を行う。

科目の目標

　英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの５つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領Ⅰ款の（１）及び（２）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第Ⅰ款の（３）に示す資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習と評価の計画

時期	単元	単元の目標 主な領域 CAN-DO ID 領域	NO	記号	CEFR	主な領域において何ができるようになるのか	総括のための観点別学習状況の評価の記録 L	R	I	P	W	評価場面	評価方法
5	1	P	1	ア	A1	日常的な話題（食べ物）について、自分の感じたことを話して伝えることができる。	知	知				授・定	PT
6	2	I	1	ア	A1	日常的な話題（動物）について、自分の考えをその理由とともに伝え合うやり取りを続けることができる。			知思態			授・他	PFT
9	3	P	1	ア	A1	日常的な話題（職業）について、情報や考えを話して伝えることができる。	知思態	知思態		知思態		授・定	PT/PFT
10	4	W	1	ア	A1	日常的な話題（場所）について、情報や考え、気持ちを書いて伝えることができる。	知思態	知思態			知思態	授・定	PT/PFT
1	5	I	1	ア	A1	日常的な話題（部活動）について、情報や考え、気持ちを論理性に注意して伝え合うやり取りを続けることができる。	知思態		知思態			授・他	PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

外国語科　年間指導計画

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	英語コミュニケーションⅠ演習	2	2年	全HR

使用教科書	副教材等
All Aboard English Communication Ⅰ （東京書籍）	WORD MEISTER、Listening Laboratoty Basic α

農業高校における英語科としての目標

農業高校での体験を含む日常的な話題、グルーバルな農業問題を含む社会的な話題に関する場面を想定した言語活動を行う。

科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの５つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領１款の（１）及び（２）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第１款の（３）に示す資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習と評価の計画

時期	単元	単元の目標 主な領域 CAN-DO ID 領域	NO	記号	CEFR	主な領域において何ができるようになるのか	総括のための観点別学習状況の評価の記録 L	R	I	P	W	評価場面	評価方法
4・5	5	W	1	ア	A1	スピーチを聞いたり説明文を読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝えることができる。(題材：好きな絵)	知思	知思			思	授・定	PT
6・7	6	P	1	ア	A1	対話を聞いたり、説明文を読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝えることができる。(題材：関心のある人物)	知思	知思		思態		授・他	PFT
9・10	7	I	1	イ	A2	対話を聞いたり、記事を読んだりして、賛成や反対の立場から情報や考えを理由や根拠とともに話して伝え合うことができる。(題材：テクノロジー)	知思	知思	思態			授・定	PFT
11・12	8	W	1	イ	A2	スピーチを聞いたり、記事を読んだりして、情報や考えなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝えることができる。(題材：国際理解)	知思	知思			思	授・定	PT
1	9	P	1	イ	A2	対話を聞いたり、記事を読んだりして、情報や考えなどを理由や根拠とともに話して伝えることができる。(題材：環境問題)				思態		授	PFT
2	10	W	1	ア	A2	物語を聞いたり、書かれている心情を読んだりして、情報を整理し、自分の考えを簡単な文章にまとめることができる。(題材：物語文)	知思	知思			思	授・他	PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）